

レイアウト：縦書き
余白：上下 31mm 左 28mm 右 27mm
フォントサイズ 10.5pt 文字数 40字 行数 34行
「標準」スタイルは行間固定値 20pt
体裁－文字の配置：中央揃え

文字色「白」
蛍光ペンの色「黒」

「ホーム」→「段落：拡張書式」→「縦中横」

「、」は「ホーム」→「フォント」→「詳細設定」で「文字間隔：狭く 6pt」文字幅が 0 になる。

普通の□の文字
「しかく」で変換すると出てくる
行間固定値 10pt

MS ゴシック
14pt

古文・漢文プリント

注意！新しい段落スタイルを作成するとき、カーソルを「標準」の段落に置いた状態で、新規作成する。こうすると、基準にするスタイルが「標準」になり、余計な設定が入り込まない。

次の古文の勉強をしましょう

今は昔、竹取の翁おきなといふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろずのことに使ひけり。名をば、讚岐の造つくりとなむ言ひける。その竹の中に、本光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：長方形」
線の太さ 0.75pt

カタカナは変換前に F7 を押す。

☐などは「ホーム」→「フォント：囲い文字」

①は「1」と打って変換

竹取物語より

☐「けり」は伝承の回想を表す助動詞。
☐「なむ」は強く指示する係助詞。それを受ける述語は連体形で結ぶ。係り結びという。
☐「たり」は完了の助動詞。

「挿入」→「図：図形」→「線：直線」
線の太さ 0.75pt
shift キー使用で水平に引く

古文用に 2 つの段落スタイルを定義
本文：左インデント 2 字 行間固定値 30pt 体裁－文字の配置：中央揃え
注釈：フォント 9pt ぶら下げ 1 字 行間固定値 12pt

古文中の ①☐④ 用に 文字スタイル を定義
フォントサイズ 7pt 文字位置上げる 6pt

次の漢文の勉強をしましょう

子曰いはク、「学シ而時習ニ之ニ、不レ亦シ樂シ乎ヤ。有リ朋トモ自ヨリ遠ニ方タル来タル、不レ亦シ樂シ乎ヤ。人シテ不レ知ラ而レ不レ慍イキトシ、不レ亦シ君クニ子シ乎ト。」

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：大かっこ」
図形の枠線は黒

「挿入」→「図：図形」→「基本図形：長方形」
線の太さ 0.75pt

①の書き下し文を書きましょう。

②の適切な場所に返り点を付けなさい。

文字は「来」「、」「上」「空白」の順で並んでいる。「、」に対して「文字間隔：狭く 6pt」。文字幅が 0 になる

10.5pt

漢文用に 3 つの段落スタイルを定義
ルビ：左インデント 2 字 フォントサイズ 6pt 行間固定値 8pt
漢字：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 12pt
体裁－文字の配置：中央揃え
行間用：左インデント 2 字 フォントサイズ 12pt 行間固定値 18pt

返り点用に 文字スタイル を定義
フォントサイズ 6pt 文字位置下げる 3pt

古文と漢文の本文は「新訂 国語 I 教育出版株式会社 昭和 60 年 1 月 20 日発行」より引用（このテキストボックスは入力不要）